

論理的債務の92%相当額の資産が確保できている

一年金基金常務理事 熊倉敏夫さん

2011年1月1日付でワイス年金制度を統合し、その権利義務を承継しました。この統合により加入者数で729人、受給者数で209人が加わり、年金資産68億円を引継ぎました。本年3月末決算の見込では、加入者数5,426人、受給者1,457人、債務830億円、資産907億円となり、積立資金は論理的債務の92%相当額を確保していますが63億円不足の状態です。確定決算数値は後日ご案内します。

資産運用は、2009年度にプラス25%、150億円の運用収益を記録し、金融危機後の市場の戻りを捉え、収益率で国内の年金制度の中でトップの成績を獲得することができました。

これに対し2010年度は-0.5%となりました。不動産REITが17%と好調でしたが、円高の進行も手伝って内外株式、外国債券はマイナスとなり、残念ながら資産運用全体としては収益獲得ができませんでした。

基金の資産運用収益は長期的に給付のための資金を確保して行くために大変重要な要素になります。時の経過とともに、基金の加入者や受給者の状況が変化し、また投資環境やマネジャー（委託運用機関）の状況も大きく変化

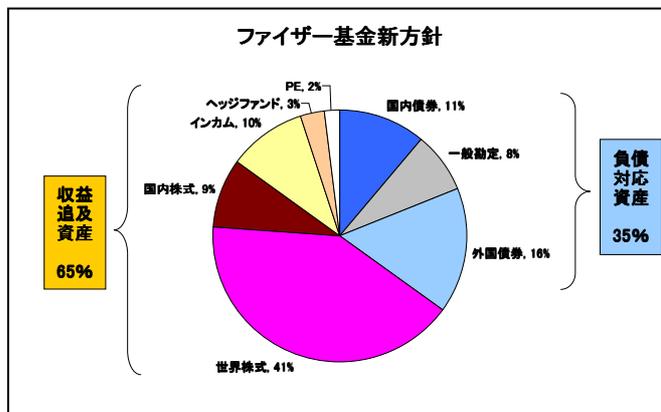
しますので、およそ3年程度の期間毎に基本的な見直しを行なうことにしています。前回の見直しは2008年に行ないましたので、3年目にあたる今年は基本方針から大きく見直しを行なって、5月から6月にかけて資産配分の変更を行ないます。

新しい方針では、全体の資産区分および配分を負債対応資産 35%、収益追求資産 65%として、資産と負債の乖離を抑えることとし、下落リスクに備える資産（内外債券、一般勘定）と資産の種類や戦略の分散をはかって効率的かつ柔軟に収益加算を期待する資産（内外株式その他）とに大きく二つに区分します。目標収益率は4.5%と変更していません。収益機会の拡大と分散を進める観点から、従来の投資対象に加えて、米国や欧州の小型株式、新興国の株式や債券、未上場株式、通貨戦略

を新たに追加し、またベンチマークにとらわれないものや確信度の高い銘柄に集中投資するものなども組み入れました。これまで採用していた合計21本の運用戦略の内10本を終了し、新たに12本を

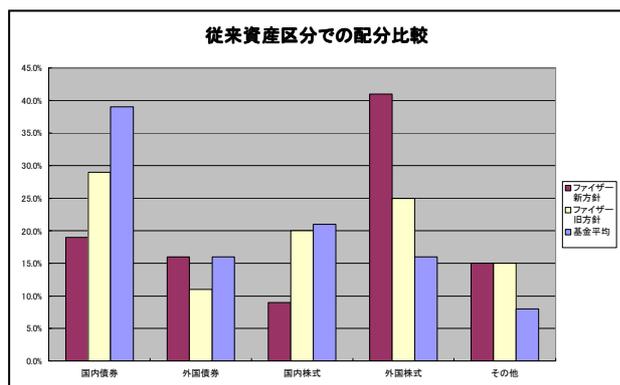
	平成 21 年	平成 22 年	単位：人
	H22. 3 月	H23. 3 月 (見込)	旧ワイス
・加入者数	4,475	5,426	729
・受給者数	1,159	1,457	209
・待期者数	517	482	43
・新規加入数	278	324	
・脱退数	103	190	

	平成 21 年	平成 22 年	単位：百万円
	H22. 3 月	H23. 3 月 (見込)	旧ワイス
・掛金収入	5,001	5,356	
・運用収益	14,980	2	
・給付額	3,656	3,785	
内年金	2,887	2,955	
内一時金	769	830	
・時価資産	74,822	83,014	6,800
・数理債務	79,877	90,709	
・積立水準	94%	92%	



を新たに追加し、またベンチマークにとらわれないものや確信度の高い銘柄に集中投資するものなども組み入れました。これまで採用していた合計21本の運用戦略の内10本を終了し、新たに12本を

採用するという大きな変更になります。大きく変化する市場環境に適応しつつ収益獲得チャンスを捉えるというより強力な構成のポートフォリオができたと思います。



年金等の給付事務は、基金の幹事会社として長らく日本生命に委託してきましたが、今年の1月から住友信託に変更しました。

先ごろは大きな震災がありましたが、年金受給者の方で被災した家屋の復旧費用などの資金として年金に代えて一時金を受取りたいといったご希望があれば変更が可能な場合があります。検討される場合は基金事務局にご相談ください。◆